

北海道における 新たな鉄道旅行需要の創出について

国土交通省 北海道運輸局

○ 北海道の豊富な観光資源を活用した観光列車の運行

- ・ JR北海道の線路を開放して、意欲のある外部事業者を国内外から広く公募し、魅力ある多様な観光列車を運行させる仕組みを検討
- ・ 北海道の恵まれた自然環境を活かし、2017年に施行された自転車活用推進法に基づく取組と連携しながら、世界最高水準のサイクリング環境の実現に向け、自転車旅行者に使いやすい鉄道サービスを提供

○ 北海道観光の最大の玄関口である新千歳空港アクセス路線のサービスの改善

- ・ 2020年に快速エアポートの運行本数を増加し、輸送力を大幅に増強。車内のWi-Fi化を完了
- ・ さらに、新千歳空港駅の改修等により、空港アクセス路線のインバウンド向けサービスを改善

日本の観光地への訪問意欲	
第1位	東京(45%)
第2位	北海道(43%)
第3位	富士山(41%)
第7位	札幌(25%)
第19位	函館(9%)



世界各国で豪華観光列車を運行するベルモンド社のイースタン&オリエンタルエクスプレス(タイ国鉄及びマレー鉄道公社の路線を利用)



JR北海道の路線でも自転車を車内に持ち込むニーズが高まっているが、現在、利用者は自転車を専用の袋に入れて運んでいる

「アジア・欧米豪 北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査」(平成29年・日本政策投資銀行)
アジア圏の個人旅行者に「実際に行ってみたい日本の観光地」を尋ねたもの

北海道における主要観光地と鉄道路線の関係



JR北海道単独では維持することが困難な線区
(H28.11 JR北海道発表)
13線区・1,237.2km

- 輸送密度200人未満の線区
- 輸送密度200人以上2,000人未満の線区
- 既に「持続可能な交通体系のあり方」について話し合いを始めている線区
- 〃 (方向性が出た線区)
- 輸送密度2,000人以上の線区及び北海道高速鉄道開発(株)関連線区
- 北海道新幹線(平成42年度末までに札幌開業)

<空港から鉄道駅までのアクセス>

空港	鉄道駅	空港アクセスバス所要時間
新千歳空港	～札幌駅	65分程度 ※JR 37分
丘珠空港	～地下鉄栄町駅	7分
函館空港	～函館駅	20分
釧路空港	～釧路駅	45分
稚内空港	～稚内駅	30分
旭川空港	～旭川駅	30～40分
帯広空港	～帯広駅	40分
女満別空港	～網走駅 ～北見駅	35分 42分
紋別空港	～遠軽駅(紋別バスターミナル経由) ～遠軽駅(予約制)	77分程度 60分強
中標津空港	～標茶駅 (中標津バスターミナル経由) ～根室駅	90分程度 95分程度

北海道サイクルツーリズム推進モデルルート
 コンセッション対象7空港
 (参考) 昭文社「分県地図① 北海道」